

ハーエンキルヒェン=ジーガーツブルン

2018年9月28日

Vector社とローターバツハ社：XCPプロトコルを介したソフトウェアデバッグ用の開発ソリューションを発表

Vector社とローターバツハ社は、新しい標準であるASAMに基づく「XCPによるソフトウェアデバッグ」ECUソフトウェア開発の統合ソリューションを提供します。これにより、キャリブレーション、デバッグのためにハードウェアを繰り返し切り替える必要がなくなります。

ECUデバッグコネクタは車両に装備されているので、MCとデバッグツール間で切り替える際に頻繁に切断や再接続する必要がありません。Vector社とローターバツハ社は協業することで、自動車業界におけるインターフェースの同時使用の要件に対応した測定、キャリブレーション、デバッグ用にECUへの同一アクセスを提供しています。2017年11月に発表された新しいASAM標準「XCPを介したソフトウェアのデバッグ」に基づき、両社が開発に積極的に携わった成果です。

Vector社のVX1000システムとキャリブレーションハードウェアにより、開発レベルのECUや、ほぼ生産準備のできたECUの内部データにアクセスすることができます。試験車両の自動車の温度範囲全体にわたり、100 MByte/秒を超えるデータ転送率を達成できます。VX1000ハードウェアのXCPスレーブを使用して、CANape測定機能およびキャリブレーションツール、標準に準拠したXCPマスタが装備されたツールに接続できます。ローターバツハ社のTRACE32デバッグは、XCPマスタであり、XCPスレーブを介してECUとECUに接続されたデバッグインターフェイスにアクセスします。このデバッグ構成は、ECUソフトウェアの拡張の必要なく動作することができます。TRACE32 XCPマスタは、ハードウェアベースのTRACE32デバッグと同じデバッグ機能を提供します。

「ローターバツハ社のデバッグとVector社のVX1000、CANapeの測定とキャリブレーションソリューションの相互運用性は、ECU開発者にとって大きな付加価値を生み出します。以前は、2つのシステムが共存していましたが、現在は一緒に使用できるだけでなく、デバッグアプリケーションの範囲はVX1000を内蔵した車両に搭載されたECUにも及びます。これにより、多くの新しい種類のアプリケーションが実行可能となり、その取り扱いは容

易化され、ECU ソフトウェアの開発とテストに貴重な時間を節約できます。」と、Vector 社の VX1000 測定/校正ハードウェアのシステムアーキテクトを務める Ralf König 氏は述べています。

LAUTERBACH, TRACE32 µTrace and other LAUTERBACH products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of LAUTERBACH. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.